

大阪市イノベーション促進評議会 平成 29 年度第 1 回 会議録

1 日時 平成 29 年 11 月 15 日（水）16:30～18:00

2 大阪イノベーションハブ

3 出席者：正城委員、東委員、竹村委員、田中委員

事務局（吉川理事、馬越部長、柳内課長、小林課長代理）

■ 議題

- ・ 大阪市イノベーション促進評議会の委員長の選任について
- ・ 平成 29 年 4 月～9 月の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価について
- ・ 今後の方向性について
- ・ その他

（事務局）

・ それでは、定刻になりましたので、平成 29 年度第 1 回大阪市イノベーション促進評議会を開催いたします。

・ 本日の評議会は、市民の方々が傍聴できるよう、ユーストリームにより同時配信をしております。

・ 本評議会は、平成 25 年の大阪イノベーションハブ O I H の開設に合わせて設置しており、平成 28 年度の委員の方々におかれましては、任期満了に伴い昨年度末をもちまして御退任されております。つきましては、資料 1 にあります名簿のとおり、今年度より新しい委員の方々に御就任をいただいております。東委員、竹村委員、田中委員、正城委員の 4 名でございます。どうぞよろしく願いいたします。

・ 本評議会は、資料 2 にございます、執行機関の附属機関に関する条例に基づき設置されております。また、グローバルイノベーションの創出の支援に関する事項の調査審議及び市長に対する意見の具申をお願いするものでございます。

・ まず、開会に当たりまして、大阪市経済戦略局理事の吉川から一言御挨拶申し上げます。

（吉川理事）

・ 吉川でございます。本日はお忙しいところ御参集いただきましてありがとうございます。

私どもの戦略的なテーマとしまして、イノベーションを起こすということで、積極的に進めております。その関係で、委員の皆様におかれましては、まさにグローバルイノベーション創出支援に関する事項の調査審議及び市長に対する意見の具申ということでお願いしておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

(事務局)

・では、続きまして、同じく資料2にございます、大阪市イノベーション促進評議会規則第4条によりまして、当評議会では委員の皆様の互選により委員長を置くこととなっております。委員の皆様からの互選を賜りたいと思いますがいかがでしょうか。

(東委員)

・私、正城委員に委員長をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

(田中委員)

・私も。

(竹村委員)

・私もそう思います。

(正城委員長)

・では、よろしくお願いいたします。

(事務局)

・続きまして、同じく規則によりまして、あらかじめ委員長の代理を決めておく必要がございます。正城委員長いかがでしょうか。

(正城委員長)

・それでは、恐らく御経歴を拝見すると一番私と遠い御経歴をお持ちではないかと思うんですけども、竹村委員をお願いしたいと思います。

(竹村委員)

・かしこまりました。よろしくお願いいたします。

(事務局)

・それでは、これより議事運営を正城委員長にお願いいたします。委員長よろしくお願いいたします。

(正城委員長)

・よろしくお願いいたします。委員長に御選任いただきました正城でございます。

・この評議会は、先ほど吉川理事からもございましたけれども、グローバルイノベーション創出の支援に関する調査審議と市長に対する意見の具申ということで伺っております。この施策の中心である大阪イノベーションハブも5年目ということでしょうか。私、大阪におりましてもかなり広まってきているといいますか、いろんな要所活動のエコシステムの中心に位置づけられつつあるんじゃないかなという風感じております。

・今日も、いろんな施策、取り組みの御説明があるかと思えますけれども、今後、これをさらに発展させて大阪から世界にということで目標を掲げられておりますので、どんどんイノベーションが生まれていくように、評議会としてもいろんな意見を具申できればという風に考えておりますので、委員の皆様には忌憚のない御意見をいただければというふうに思います。

・今日でございますけれども、円滑な評議会の運営に御協力いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

・それでは、議事を進めてまいりたいと思いますが、1枚目の議題のところの1が済んでおりますので、2番の平成29年4月から9月上旬期の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価についてということと、今後の方向性についてが中心になるかと思えます。そのほかあればということで議題が上がっております。

・では、早速最初の議題、2、基本方針、グローバルイノベーションのための方針であるうめきたの基本方針から御説明いただいたのちに、議題についての御説明を事務局にお願いしたいと思います。議題2の事務局からの御説明の後に、各委員からいろいろ御意見をいただきたいと思えますので、ぜひよろしくお願いいたします。

それでは、事務局のほうでよろしくお願いいたします。

(事務局)

資料3「うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援の基本方針(改定版)(抜粋)」、資料4「グローバルイノベーション創出支援事業の体系」、資料5「平成29年度事業(4月～9月)にかかる目標設定とアウトカム(成果)について」及び資料6「グローバルイノベーション創出支援事業平成29年度上半期の主な取組みについて」に沿って説明

(正城委員長)

・御説明ありがとうございました。ここから委員の皆様にご意見とか御質問とかを1人ずつお願いしていきたく思いますけれども、全体としては、まず、基本方針というのを御説明いただき、そして全体像のあと、KPIが関連するようないろいろな上期の数値の情報と、それに対する事務局としての自己評価の御説明をいただきました。また、最後に資料6を使って主な取組みということで、幾つか事例を御説明いただきました。委員の方々、一部関わられていたり、初めてお聞きになられたこととかもあるかと思っておりますけれども、それぞれの立場、シンクタンクですとか実際に起業されてる方とか、あるいは、多数の中でグローバルな視点とか他地域との比較等々いろいろな視点を含めて御意見、御質問を行っていただきたいと思っておりますけれども、東委員何か御意見、御質問があればお願いします。

(東委員)

・まず、御説明ありがとうございます。私も日ごろ、東京にいますけれども、5年イノベーションハブつくりされて景気がいいと発表していただきましたけれども、立ち上げの時期はかなりうまく初動はいったかなという見立てはしています。というのも、東京の都市開発とか、ああいいうイノベーション拠点の整備といったときに、大体関東から大阪イノベーションハブに視察にくるとかというのが最初多かったわけですね。そういう意味では、東京圏内でも結構参考にされている方が多かったというのが実際あると思います。

・多分この5年から今後向こう5年どうするかという話が、今のKPIの状態の延長上でいいのかどうか、というのが1つあるかなと思っています。実際に、単なるコミュニティを盛り上げるということで、とりあえずひたすらまずは集めていくと。ギャザリングしてからそこからイノベーションを起こすというアプローチはやられてきたと思うのですが、それが持続するようにどうするかみたいな話がこれからだろうと。

・その中で、これは日本全体的にいえる話なんですが、結構パーツは全てそろってきてると

は思うんですね。人・物・金・情報・技術・制度・フィールドと言ってるんですけども、人と物と金と情報、これはよくある話なのですが、これから制度とフィールドというところも組み合わせながら、どうやって全体の社会生態系をつくるのかという仕掛けになってくるのかなと思ってます。

・そういう意味では、それぞれイノベーションハブでやられている政策もあれば、大阪市中でもほかの産業政策もあるかなと。それをどうやって組み合わせていくかというところが、次大事なタイミングかなと思っています。そういう意味では、国の中央省庁の政策も似てまして、結構分割され過ぎてると、機能が別れ過ぎてると。言ってしまうとそれをまとめていくという、デザインをどうしますかというところが、最も次できていくところかなと思ってます。

・それぞれ細かい話はまた後ほどの議論とさせていただきたいんですが、金に関してもいろんな種類が出てきているわけです。別にこれエクイティのファイナンスの話のリスクマネーだったりとか、最近だったらソーシャルインパクトボンドとか、昔からあるPFIとかですね。さっきのクラウドファンディングだとか、ICOとか、いろんなパターンが出てくると。金の調達の種類も変わっているというところで、これから産業創出するにおいてどういう金の使い方をそれぞれどういう分担でやっていくのかと。

・今は、市場見ても、民間のリスクマネーは大分増えてきています。ただエクイティ投資に関する金は結構余っている状態になってると。本来行政がすべきリスクマネーの作り方はというところが、結構ほかの自治体の方々への委員会の中でも話はしているんですけども、やはり人・物・金・情報に対する官民の分担の役割とか、どうやってうまくことシームレスに橋渡しするかというところが、多分次がポイントになってくるかなと。特に、グローバルハブの結節ということでテーマを掲げられているのであれば、恐らくもうちょっとわくわくするような思想は表に出したほうがいいかなと思ってます。特に、イノベーションに関してよく言ってるんですけど、日本人コンセプチャライゼーションめちゃくちゃ下手だろうと。

・コンセプト作れん、というよく日本版何たらという政策が多いんですけども、日本から出せるのかという話があって、さっきだったらコネクテッドインダストリーとか言ってますけれども。ただ、そのときに、大阪の今の重要な視点でいうと、アジアを見ていろいろ活動されてると思うんですが、そのときに、アジアをたとえば日本が牽引すると、大阪としてアジアの新しい経済圏をつくるんだという形の、ある種理想とか思想とか哲学でいいと思うん

ですけれども、それを掲げた上で新しい資本主義どうつくるかみたいな話はこれからやっていったらいいかなと思います。

・これは、世界中今言われてるんですけど、G7とかG20で言われてる話が、そろそろ資本主義の限界がきていると、金融システムを見直そうという話になってきている。それこそよくありがちなクリプトカレンシーの議論もあるんですが、金融経済というところに対してデータ経済みたいなのが入ってきてる。

・今回冒頭おっしゃられたIT企業を中心に今集まってきているというところは、多分スタートとしてすごくいいと思うんですが、じゃあその大阪の産業を見たときに、私大阪の見立てをすると、たとえメディカル、ヘルスケア、バイオ、関西圏はリサコンもありますし。そこに次、インシリコンみたいなアプローチでメディカルが入ってきた、バイオが入ってきたと。それで、どういうものを実現するのかというところとか、そういうある種もうちょっとテーマを、プロジェクトがイメージしやすいような巻き込み方にしないと、大体コンソーシアム型で失敗してる理由はボヤっとしている。

・特に、民間主導のコンソーシアムってさんざん私もいろんなもの見てきてますけれども、新しいことを起こそうぜとかイノベーションやろうぜとか、スタートアップを応援しようぜとか、じゃあどうしますかと言ったときにとまる、ということで、恐らく具体的に次のアクション何したらいいかぐらいまでかみ砕かないと、なかなか産業界が動かないのが現状かなと。特に、今その節目にきているというところで、そのあたりのガイドはこういう評議会でもそうですし、官民の枠組みの中でつくっていくのが最も大事なかなと。全体的な感想ですけども、一旦以上で。

(正城委員長)

・どうもありがとうございました。非常に多様な御意見をいただきまして。また、今後のところも含めて事務局からフォローできるのであれば後でお願いしたいと思いますが、続いて竹村委員をお願いします。御質問も含めてあれば。

(竹村委員)

・アウトカムとか目標のいろいろな御紹介ありがとうございました。非常にこの5年で大阪のスタートアップのハブと言えれば大阪イノベーションハブというイメージというのは物すごくついていていると思います。私も、東京でも大阪行くんだったらここに話すといいよ、という

のはよく聞くので、その認知というのは非常に成功してらっしゃるんじゃないかなというふうに思います。数字で見ても、これがほかのインキュベーション施設と比べてどうなのかというのが土地感がないんですけれども、非常にいい形で成長されてるのかなというふうには思いました。

・先ほどおっしゃられてたとおりに、次のステージに向けてというところで、今ちょうど、今年すごくブロックチェーン、ICOブームみたいなのもきていますし、私、社会起業家向けのアクセラレータとかもやっていますが、やはり社会でいろいろな、ある意味課題が山積している中で、そこをアントレプレナーの力でどうやって次の日本をつくっていくかみたいなどころというのは、いよいよそのアクションというのをもう少しお金もついた形でやっていく時代というのがきているのかなと思うんですが、今まではどうしても社会課題を解決するというのは、非常に文系の人が多くて、アクセラレータというのはテックスキルが非常に低かったりとか、人材のマッチングというのが余り有機的に行われていないというのが日本の現状で、それに対してお金も非常に欧米に比べると、特にアメリカに比べると、フィランソロフィーのお金というのも非常に限られてますし、非常にスケールするようなコンセプトも少ない上に、それを支援するお金もないというのが今まで日本の現状だったと思うんですね。

・ただ、これからを考えていったときに、お金の調達的手段というのが非常に増えてますし、日本が若者をわくわくさせていくという意味では、やっぱり自分たちが住みやすい社会というのは自分たちの力で、スケラブルにつくっていけるという目がやっぱり必要かなというふうに思っているんで、こういった拠点というのは、やっぱり若者の夢を実現するようなスタートアップというのを事例として幾つも出していくというところが非常に鍵かなというふうに思っています。

・そういった意味で、先ほどもおっしゃられていたところに近いんですけれども、ここの特徴というのを社会起業という形じゃなくていいと思うんですけど、バーティカル産業面での特徴であるとか、本当の意味で右側ですよ、ピッチとかそういったところだけじゃなくて、今まで全く出会えてなかった人材がここで業界の知識、テクノロジーの力、お金みたいなものがここを通じてつながることで、大阪というか関西というか日本というかアジアというか、何か1つ特徴のある企業を応援できるようなプラットフォームに成長していくというのが非常に明るい未来をつくる拠点という形になっていくのかなと思うので、少しマーケティング的な部分だけではなくて、たまたま昨日私が共催させていただいたイベントも教育系のイベン

トだったんですけど、教育アントレプレナーの人がいっぱいいらして、やりたいという人とかそういった可能性のある人、やっぱりまだこちらのほうになかなかいらしたことがない方も多かったんですよ。

・なので、そういった業界のディープな知見とか経験がある方って必ずしもITスタートアップみたいな、こういった場所に来て人と出会えてお金もつけてもらえてみたいな認知がないので、実際課題の最前線で住んでいる人たち、なおかつ、大阪の特徴を生かしやすいところと、ここに既に集まっていっしょにITの方々というのと、お金みたいなものをつなげていける次の可能性というのは、すごく大きいのかなと。

(正城委員長)

・ありがとうございました。社会課題も含めていろんな集まるツールにはなっているけれども、そこから実際に動くプロジェクトが出てきているというのが、そのためにどうすればいいかというようなことですかね。

(竹村委員)

・そうですね。やっぱり従来型のピッチイベントはなかなかそこまでの全く異なる生態系にいる人たちが会って一緒に何かやろうというふうになかなかやっぱならないんですよ。なので、そこをやってあげるとすごく違ってくるのかなという気は。

(正城委員長)

・なるほど。またその点もちょっと後でフォローいただければと思います。先に全委員に御意見いただきたいと思いますので。田中委員。

(田中委員)

・御説明ありがとうございました。私、地元大阪でこの隣で今事業しておるんですけども、やはり大阪の強みというのを認識していかないといけないんじゃないかな、ということを実は日々認識しますが、何が強みなのかはまいちよくわからないと。

・非常に世の中刺激がないと成長できませんので、そう思うと大阪より東京のほうがいいし、東京よりシリコンバレーのほうがいいんじゃないかということになってしまいがちなんですけども、そんな中、イノベーションというのが今回の非常に重要なキーワードだというふ

うに思っていますので、そこについてまずコメントさせていただければと思います。

・イノベーションってよく技術革新とかいうふうなテクノロジードリブンで語られがちだというふうに思ってるんですけども、私、技術があったとしても生かされなければ意味がないと思っておりますし、世界が変わらなければ意味がないというふうに思っております。

・なので、テクノロジーってあくまでも手段でしかありませんので、大阪というのは非常に技術に特化したものづくり企業が多いとかいろいろそういう強みを活かしがちなんですけども、それはあくまでも手段でしかなくて、イノベーションを起こすパーツの1つでしかない。

・先ほど東委員がおっしゃってたとおり、実はパーツというのはこの国も大阪もそろってるんだというふうに思っております。しかしながらイノベーションは起こっていない。技術があってもイノベーションにはならないというところを、まず、認識しないといけないなというところから始めさせていただければと思います。その上で、実際に事業を成功させるにはどうするのかというお話をよく伺いますんですけども、正直わからないというのがございます。

・ですので、成功というよりも、成功と失敗という体系に分ければ少し整理されるかと思うんですけども、失敗しないように必要条件をそろえ、成功のために十分条件をそろえるという話で表現させていただきたいんですけども、必要条件というのは結構いろいろありまして、人・物・金というような必要条件だというふうに思っています。ビジネスプランなんかもそうですし、定量化しやすいもの、そういったものが必要条件として供給されなければ、そのプロジェクト、会社は失敗するというふうに思っております。

・ですので、資金調達ができるとか、場所があるとか、人が集めやすいとかそういったことも当然重要かと思うんですけども、皆さん御存じのとおりに大企業はたくさんの人を抱え、たくさんのお金もち、たくさんのリソースをお持ちなのに、プロジェクトに必ず失敗するというのはなぜなのかと。必ずと言うと怒られますけれども、やはり十分条件、いわゆる成功要件が少ないんじゃないかなというふうに意識をしております。

・成功要件って何なのかなと、私が思うに、例えば人のつながりであったりとか、やりたいという気持ちの熱量であったりとか、あとは運、そういったものによってる部分が多いというふうに思います。ですので、長く話しましたけれども、必要条件をそろえ、十分条件を内発的に持つ起業家を連れてくる、それを支援するためのネットワーキングを行う場所をつくる、こういったことが相対なんじゃないかなというふうに思っております。どうしても必要

条件に公的支援というのは寄りがちでもありますし、企業においても、大企業さんのイノベーションという、大体必要条件を埋めることから始めるんですけれども、本質的にはやはり十分条件、本当にやる気のある人をピックアップするとか、その人たちをつなげる、そこに本質があるんだろうと。その上で、運が悪ければだめなんで数を集めると。10社に1社2社は成功しますから、そういった意味で言うと、たくさんそういう人たちを集めるということは必要なんだろうとっております。

・ということは、イノベーションハブの役割が、人・物・金だったとすると、ちょっとそれは弱いのかなというふうに思っております、正直世の中にお金はかなり余ってますし、人に関してはかなり難しくはなってきましたけど、物に関してもあふれかえっていると。そうになると、必要条件をOIHが供給するのではなくて、十分条件を供給する場所になってほしいなというところが最初のコメントでございます。

・ネットワーキングという観点でいうと、大阪の強みが最近見えてきてまして、何かというと大きな企業とスタートアップがつながれる土壌が徐々にでき始めているというところなんです。

・どうしても東京のほうですと大企業と、いわゆるスタートアップというと全然セパレートされた関係になりがちで、例えばファンドとかを通じて大企業が出資するということがあったとしても、人的に直接スタートアップとつながれる距離になかなかなかったりとか、あと、大企業もスタートアップもたくさんあるので、N対N、N対Mの関係性が大き過ぎてマッチングできないということがあります。

・私、福岡で、福岡グロスネクストというのを受託してやっておりますけれども、福岡は非常にその点進んでますが、大阪に比べて大企業はほぼないという、いわゆる支店経済ですので、本社としての立場がないと。そうなってくると、名古屋であるとか大阪であるとか京都であるとかは、大企業がいて、かつ、地元に住ついでいて、かつ、スタートアップ精神を持った企業というのが比較的多いというふうに感じてまして、大阪はやっぱり常住企業の絶対量が多いですから、そういった意味で、大企業さんとスタートアップをマッチングさせることによるネットワーク効果というのは非常に大きい都市なんじゃないかなというふうに感じるところです。

・そういった意味でも、OIHが中心に人・物・金の中でも、特に、人とかネットワークとか人のつながり、熱量高い人をここに集めてしまうと、そういうふうな拠点として成長されることを祈念しております、単に支援した数とかというよりも、とにかく人が集まるだけでも何か勝手にやるでしょうし、熱量低い人だったら何もしないでしょうしね。そのあた

りは、ネットアップ効果というのに非常に期待すると、やはり大企業とかオール大阪、オール関西のリソースをこちらにネットワーク的につないでいく、これは非常に重要なことなのではないかなというふうに感じております。以上でございます。

(正城委員長)

・非常にいろんな御意見をいただいたので、私が御意見申し上げる時間がなくなってしまったんですけども、次の今後の方向性につながるための確認という部分だけにさせていただこうと思うんですが、資料5のコミュニティ形成の会員制度、OIHメンバーズ、プレイヤー・パートナーというのが、どういった方々になりつつあるのか。

・驚いたと言ったら失礼かもしれませんが、どういった人材が含まれるのかということと、KPIに関しては、非常にこのまま進めていただければまず問題なく達成されるんだと思うんですが、定性的指標のところとしては、プロジェクト創出の56件中10件は見えますというお話があったので、そこだけ倍にしても届かないということなんで、どういうことを方向にされるかというのが若干心配になりましたので、今後の方向性のところで今御意見いただいた分の御回答も、恐らく次の今後の方向性のところで全部お答えいただけるんじゃないかというのを期待しつつ、次の議題に入らせていただきたいというふうに思います。

・では、委員の方ありがとうございました。次の議題、今後の方向性ということで、まず事務局から御説明いただけますでしょうか。

(事務局)

資料7「今後の方向性について」に沿って説明

(田中委員)

・あと、今お話しいただいたところなんですけれども、新規創業とスタートアップを切り分けるというのは結構重要だと思っております、新規創業の中にいわゆるスタートアップというのが含まれていて、要は飲食店を始めますよとか、小売店を始めますよというのも新規創業でして、福岡市さんの施策では、明確にスタートアップだというふうに言い切られたんですね。

・なので、どうしても新規創業になると、街のお手伝いみたいな感じになるんですけどそうではないということを宣言されて、ある程度区分をされたんですね。なので、誰でも受け入

れるというのも当然重要なんですけども、その中でも今おっしゃってたように、海外志向であるとか、好奇心が旺盛だとか、ある程度ラベリングをしていく。差別というよりは区別をしていって、そういうその人のカラーをつけていくほうがいいんじゃないかなというのが1点と。

・もう1つは、やっぱり福岡市、すごいイメージがよくて、すごく人が増えているとか新規創業しているというのはありますけども、私、中に入ってわかるのは、大阪のほうが新規創業しているスタートアップ多いんですよ。ただ、やっぱりイメージとして人口当たりのスタートアップ数が福岡は多いです、絶対数では大阪負けてないのに、ブランドイメージで負けてしまっている。

・OIHがすごくブランドイメージあるというのを竹村さんがさっきおっしゃってたのはすごく重要なことで、ほぼブランドで決まるようなもの。大阪というとききあきんどの街やけど最近社用だみたいなそういうイメージがあるじゃないですか。でも、最近何かUSJでもうかつとるわみたいなそういうイメージなんですけれども、あとは、笑いの街とか、ちょっとビジネスのスマートな感じがないと。

・なので、例えばそういうのをたたくような新聞記事でも大阪が社用だとかスタートアップ全然出ないみたいなのが、元気がないとかね、よく出てくるんですよ。枕言葉のようにああいうのが出てきたときに毎回毎回抗議しないとイケないはずなんです。この間も福岡市さんが全然別件のことで何かの指摘があったとき、そんなことはない、市として番組に対してBPOか何かで反論されてましたけれども、やっぱりブランドイメージを守るためにイノベーションハブだったりとか、大阪市としてもっと行動してもいいはずだと思うんですね。だから、どういうふうなイメージになりたいということと、それと違ってる報道だとか流れに対しては、いや、違うんですよと丁寧に方向づけをしていく、そういったことが重要なというふうに感じます。

(竹村委員)

・イノベーションを双発する人材、内発的な動機がすごい強い人材って、本当にやる気ある人って結構東京行っちゃったりとか海外行っちゃったりという人もいますじゃないですか。必ずしも大阪に皆さん残ってないという問題もある、自分もその1人なんですけど、結構その次の層ってすごくたくさんいると思うんです。大阪は教育機関もたくさんありますし。

・なので、そういう人たちをどうやって内発的動機を刺激していくか、その1つの核の場所

としてここが機能するかというのが1つのネクストステップチャレンジかなというふうに思っていて、今、ラーニングの環境でさえ、みたいなことも勉強してるんですけど、やっぱり結構人って環境に物すごく影響されるので、イベントで楽しいとかそういうのもいいと思いますし、ブートキャンプとかもいいと思うんですけど、この場所全体が、こういうこと言っちゃっていいのかわかんないですけど、もう少しイノベティブな雰囲気、例えばスーツの人が少ないとか、若い子たちがここにきたら自分がもっとクリエイティブな気分になれる、みたいなそういうイメージの場所に、一角でもいいと思うんですけど、一部の場所とかでもそういう場所ができてくると、多分そういうことを求めて人がもってくるようになって、そうすると、ポジティブスパイラルみたいなのが動き始めると思うんですよ。

・物すごくイノベティブな国の教育機関とかも、学校って感じじゃないんですよ。配色とかいろいろな意味で配置とか、ここもすごくすてきなデザインだと思うので、別に批判をしているつもりはないんですけども、せっかく海外としてのコネクションを強めてらっしゃるんだったら、イスラエルとかもすごい場所とかありまして、そういうイノベーターを育ててる教育機関の今の現場の環境デザインがどうなってるかとか、研究されたりすると多分イメージがすごく湧くかなと思うんですよ。

・そういうのがあるだけでもブランディングがすごくよくなったりとか、若い子たちがすてきだからもっと来たいと思ったりとか、というきっかけになるんじゃないかなと思います。

(東委員)

・政策立てるときに最近よく話をしてるんですけど、最も無視されてるのが政策立案者のジェネレーションのギャップというような話なんですね。例えば、2020年見たときに、結構大きな段階があるという話をしまして、2020年時点の話をしますと、40歳の方、20年に40歳の方ってビフォーインターネット、アフターインターネット、ちょうどはざまを若い世代を過ごした人たちと。次、25歳の方というのは、生まれながらにインターネットが商業化されてます、という人たちですね、95年ゼロ歳やと。次、2020年15歳の方ってもう生まれながらにソーシャルリスト、10歳の方って生まれながらにモバイルリスト、オリンピック世代5歳のとき生まれながらにペッパーいましたとかコミュニケーションロボが手に入ります、という。この世代の感受性って全然違うんですよ。

・イノベーション起こすやつらってこういう層なんですけども、やっぱり政策立案って40代だけなんですね、簡単に言うと。だから、全くその人たちの志向とか行動とか価値観とい

うのが理解できない状態でイノベーション語ってるケースが多くて、これって結構シンプルなブランディングなんですけど、よく経産省で若手時間プロジェクトってあんだけ盛り上がったというのは、変な話、国があらゆるレポートとか制限、政策的にペーパーつくってますけど、たった1枚の若手時間プロジェクトのダウンロードが異常にあったと。

・明るい雰囲気が発生したというのは、やはり霞が関の中でインパクトのある話だと。同時にあるのがワンジャパンですね。既存の企業の若手が集まってコミュニティをつくっていると。最近、文科省で起こっているのが、若手COIプロジェクトという、これはセンターイノベーション、国プロですね。

・国プロに従事してる若手研究者の一斉放棄みたいなものが今起こっているということで、意外と若手が、言ってしまうとおまえらもう30代、40代とか20代で自分たちの国のデザインしてみろと、それを重要な会議にぶち込んでやるという、このプロセスが結構いろんな手に利くというのが、結構シンプルになるんですよ。そこを吸い上げてあげて、ある種、大人たちがとりあえずそれやってみろ、という仕組みをつくるというのが意外とシンプルで広がったなというのは、ここ去年と今年見えますと。

・そこに人が集まってきているのですよね、コミュニティが。そういう意味では1つ関西でもある種・あるテーマをして若手のプロジェクトを立てて、本当の政策に放り込んでやるという。そういうのは、昔10何年前ぐらいでもある種政策立案に若手の政策、ペーパーで入れたると骨太の方針で言うみたいな話がありましたけど、世の中変える重要な政策に反映してやるぞと本気で考えろという若手のプロジェクトありかなと思ってます。

(正城委員長)

・ありがとうございます。いろいろ御意見いただけてますけど、今の話にもありましたように、これまでかなり頑張ってきてるよというところはあるけれども、ブランディングだったり、さらに、集める場から集まる場みたいな、そのためには、魅力的な場所だったり人だったりとかということが重要じゃないかということをお皆さん御指摘されてるのかなというふうには感じました。

・私から、具体的にじゃあどうするかということの1つとして、これまで例えばピッチイベントだったりとかプロセス的なところは玉は結構そろってますね、という中で、どなたかもおっしゃってた双発というんですかね、今まで集まってきた人たちが単発ではなくて相互につながっていくような仕組みとか、進め方だったりとかというのが、どういうふうによ

っていけばいいのかなというのが1点あるかなと思います。

・竹村委員がいらっしゃるからというふうに申し上げるわけじゃないんですけど、私が参加したイベントに関連するイベントの情報が選ばれてメールでくるような、まさに触手が伸びるような感じでいろんなプッシュがくると、本当にどんどん集まりたいと思うような場になるポテンシャルがあるんじゃないかなというふうには思います。

(田中委員)

・空気感って重要だなと思ってて、先ほどおっしゃってたこの場所というので、例えば、講演行って登壇して真っ黒なことが結構あるんです。真っ黒な黒スーツの方々ばかりで、男性のスーツの方ばかりみたいな講演があるんですけども、自分が何のために講演に来たんだろうかと思いながらも、お金くれるからええかと思いながら、これやったらこんほうがいいかなとかね。

・それはさておき、何回か御提案差し上げた、もうちょっと空気感を、四角くなくしたほうがいいんじゃないかとか、白くなくしたほうがいいんじゃないか、とかそういうのをよく考えてまして、カーペット変えるだけでも大分イメージ変わるんですけど、とか。というのも、我々の本社隣なんですけど、実際見に来ていただいて、同じような仕様なんですけど全部色塗りかえて床剥がして、そんなお金かからなかったんですけどね、すごく空間としてのデザインをかなりこだわった、というのがあるんですね。空間と、あと、誰がいるかというのも結構重要ですね、

・結局、足が速い人と一緒に走ると足が速くなるし、成績のいいクラスはビリの人でもベースの成績いいんですよ。そういった意味でいうと、東京がもてはやされるのはそこだと思ってるんですが、やっぱり大阪が東京よりも強みがあるなともう1個感じているのが、東京って結構渋谷だったり新宿だったりいろいろコミュニティが分散してるし、フィンテック系だったら大手町のほうが多いとかいろいろあるんですけども、大阪に関しては、関西圏全域含めてかもしれないですけども梅田じゃないですか。

・なので、一言目にこのエリアが出てくるというのは非常によくて、福岡の天神、大阪の梅田みたいな感じで、この場所にクリエイティビティの高い空間をつくっていくというのはすごく重要だなと思ってます。あと、「クリエイティブクラスの世紀」というリチャード・フロリダの有名な本がありますけれども、あそこが言ってるのってやっぱり多様性だったり寛容性だったりとかだと思ってるんですね。

・要は混沌の中から何か生まれる、ということなんです、整理され過ぎて余白がない状態というのは何も生まれないとよく言われています。そういう意味でいうと、多様性の観点で先ほどおっしゃったんだと思うんです。若い人入れるというのは大体政策立案って40代、50代の方がつくるんで、70代の意見も20代の意見もほぼ入っていないということになりますし、あとは、男性、女性という多様性もありますし、あとは、外国人の方に来てもらいたいといいながら、こういうところに外国の方がいないとかですね。そういうベースとしての多様性をいかに挙げていくかということが非常に重要なとは思っております。

(正城委員長)

・途中でほかの施策とかは国の場合も分断されがちとか、というふうにおっしゃいましたけれども、大阪府も大阪市も含めていろんな施策をされてると思うんです。例えばですけど、御発言あったようなインバウンドに関しても大阪はかなり頑張ってると思うんですけど、例えばそれと組み合わせるとか、観光スポットにするぐらいの、外国の方がふらっと来れるような、とかというような具体的な一例でしかないんですけども、そういったことも含めて施策を検討していただいたらなと思いますけれども。

(田中委員)

・秋葉原のDMM. com、DMM. makeなんかは、外国人の起業家が秋葉原に観光したついでにやってくるという話があつてですね。

(竹村委員)

・あそこ、実際すごくおもしろいのが、実際に出てきてる起業家で女性の若い人なんですけれど、彼女自身は大企業でものづくりとかしたことないんですよ。実際に、ベンチャーを立ち上げるに当たって、あそこに来ているシャープとか大企業でさんざん大量生産を経験してきたエンジニアの人とかがあそこに詰めてたりとかして、その人たちに協力してもらってプロトタイプつくって、実際もう製品化にこぎつけた、という例があつたりとかして、結構若い人たちのアイデアを日本の場合、特に大阪なんかのものづくりの文化もありますから、そういった大企業とかに埋もれている人材の方たちが、こういった場を通じて創業支援を真剣にやる、というのが企業も認めてくれる、みたいな文化をつくっていければ、ふだんつながってなかったアイデアと技術がひつつくという場をここが媒介できる可能性があると思うんで

すよね。

(東委員)

・あそこうまくいってるコンセプトが、変な話若い間に生産からも販売まで丸ごと1回、ちっちゃくでもいいから成功体験つけてみろ、みたいなコンセプトなんですね。大体若い人たちの最初のプロダクト見てても、何だしょぼいの、って当たり前なんですよ。やったことないから。しょぼいんですけど、どんどん資金調達してよりよくなっていきますから。

・そのときによく産業界とか大人たちは、何だこんなもん、という話になって、そこで消えていくという。それを1回自分たちでゼロから1までやってみて、小さくでもいいからマーケットに回してみようみたいな。そこで流通させるまでやらせてみるというのがすごい自信になってると。

・ただ今、結構若い人たちって1回成功体験とか自信を持たすとどんな小さなものでもいいから、というところに対するプロセスが一巡してないのかなと。ピッチコンテストにしてもアクセラレーションに関しても入り口でとまってそれで終わってしまうってケースが多いので、そこまで引き上げて1回マーケットインしますか、みたいなところは、何かしら応援してあげる必要があるのかと。

(正城委員長)

・今みたいな組み合わせというのもあると思うし、一番最初におっしゃったところで社会課題に対して解決するような取り組みだったり、プロジェクトみたいな話もあったと思うんですけども、例えば、社会課題をもってる人と、社会課題があったら解決したいと思う人と、それを解決する手段になる可能性も思ってる人みたいな、そういうまさにプロジェクトをつくるためのイベントとか取り組みみたいな点が多いんですかね。

・例えば、ピッチイベントというのだったら、それは手法で集めてますよね。そこに参加される方々というのは、せいぜい別々の課題を持ったり、方向性を持った方だと思うんですけども、何かプロジェクトをつくる方向で全く関わったことがない方々が集まるようなイベントというのは、結果としては。

(事務局)

・それは、例えばアイデアソンであるとか、そういう形ではやっていますね。そのテーマが最

近では、高齢者住宅の集合住宅であるような、大阪でいえば千里であるとかそういうところでの高齢者対策とか、空き家対策とか、そういったものについてやるとかいうのは出始めたりにしていますね。もともとはそういう課題を解決するということでみんなで知恵を出しめしようというやつでアイデアソンとかハッカソンとかはやっています。

(田中委員)

・先ほど委員長がおっしゃってた集めるじゃなくて集まるというのは結構重要で、さっきのDMM. makeの話で言うと、住みついているような人がいるじゃないですか。わざわざそこに自分で能動的にやってきて、そこで時間を共有する中で重なったところで知り合う、みたいなことでつながっていくんです。

・さっきの空き家対策の人とかも、例えば、ここにしばらくブースを構えておられるようにするとか、コワーキングスペースって結構あるんですけども、人がつながることがそこまでできないケースが多くて、なので、こういう場であの人いつもおるな、みたいな人が何人か出てくるとすごく変わるのかもしれないですね。

(事務局)

・今現在、こちらのイベントではないんですけども、こちらで作業スペースみたいなところを開放してまして、そこに若い方々でチームをつくってここで議論してというような場が見えるような状況には徐々になってきてるんです。まだ数は少ないんですけども。

(田中委員)

・KPIでそういうのもあってもいいかもしれないですね。

(正城委員長)

・ナレッジサロンが向かいにあって、雰囲気もいいですし、いろんな方々が集まっているんですけど、そことのつながりみたいなものはどうなんですか。

(東委員)

・ナレッジサロンに自由に入れないのが痛いんですよ。

(田中委員)

・こことナレッジサロンがつながってないんで、それが一番の衝撃かなという。こんなに近いのに受付しないといけない。

(東委員)

・おしゃれですよあそこ。

(正城委員長)

・ナレッジサロンに入ってくる人がこっちに来るのは自由ですよ。多分多くの場合やったら。

(田中委員)

・こっちはちらっと近くのぞきにいけないという。

(正城委員長)

・見ていただいて、あれっということ。今日もイベントありましたけども、それがあんなだったらナレッジサロンに行くつもりだったけどこっちにも、みたいな流れとかね。一番近いところにいるいろんな人たちが集まる場なので。

(事務局)

・ナレッジサロンの中にたくさんの人がいらっしゃって、例えば、ふらっと入ってきていたときに何やってるのかな、というのが今はあんまりわからない状況で。

(正城委員長)

・入れるのかなみたいな。

(事務局)

・さっき竹村先生もおっしゃったんですけども、ここがもう少しどんなことやってる場所だっというのもちろんわかるように、例えば、今、計画予定していますのが、ちゃんと月間のイベントがすぐここに来てわかるような表示をちゃんとして、ふらっときて今日はあんま

りおもしろそうじゃないけども、1週間後にはこんながあるんだったらこれは来てみようかなと、ここでわかるようにしていただくであるとか、あと、大阪イノベーションハブから出たようないろんな新しい商品であるとかビジネスみたいなものをちゃんとここで展示するようなスペースを設けることによって、もう少し来るだけでも楽しくなるような場所にしていくとか、あとはさっきお話しあったようにカーペットもちょっと変えとかですね。それは予算の方向もありますので予定もしたりもしているんですけども、そういうことでわくわくするような場所にしていくようなことは続けていきたいと思っています。

(正城委員長)

・あと、やはりコンセプトとかプロセスみたいなところはどこも同じになりつつあるけれども、コンセプトと見たときにちょっと各委員の御意見を伺いたいんですけども、やはり1つコンセプトだったりイメージとかあると、それを目指して人が集まってくるという手もあると思うんですが、先ほどどなたかがおっしゃったように、関西だとここだよ、というようにときに、ここが1つのコンセプトにしていいのかとかというのは、逆にどうでしょうかね。やっぱり幾つかコンセプトはあってもいいのか、やっぱり1つのほうが集まりやすいのかというのは。

(田中委員)

・シンプルに人がつながる場所というのは余り世の中にはなくて、DMM. make とかは何か行ったら誰かとつながることもあるんですけども、ここが一番の強みは、偉そうな人を呼べる力は強いじゃないですか。

・極論言えば、それこそ蔭山社長とかですね、どっかの有名な同友会企業の社長とかがコンテンツとして来るわけじゃないですか。金曜日に行くと誰々さんがいるとか、そういうふうなことでやっぱりコンテンツに対して人は集まってくるんで、そのコンテンツ力というのはOIHは結構強いはずなので、そういう東京の人でも大阪の人でもどこの人でも、あと、ポジションもばらばらでいいんですけども。たくさんの人を集められる力を使って集まるように仕掛けるというのは1つの手かなとは感じますね。

(正城委員長)

・何かこのコンセプトミーティングに関してさらに御意見ありますか。

(東委員)

・イノベーション、とそもそもテーマをしてるので、最初田中委員がおっしゃられた世の中自体がテクノロジーより過ぎてる気はするんです。イノベーションってそもそもものの流れとか見方を変えますよ、みたいな世界からスタートしてるので、じゃあ大阪を冷静に考えたときに、今までの見方全部変えていきましょうということでそれぞれテーマ立てれるはずなんです。

・政策の立案のプロセスのやり方をそもそも変えてしまうとか。そのときに、それぞれプロジェクト組成をしていって、そのプロジェクトが今までの言ってしまう政策のプロセスとか、産業界がとってきたプレスと全く違う流れになっていると。例えばわかりやすく言うと、今、内閣府でオープンイノベーションチャレンジというのを私が委員をやってるんで、試しに始めたんですが、これ公共調達なわけですよ。

・これはもともと内閣府でも動いてますし、総務省でも動いてますけれども、具体的にその人で始めたのは、スタートアップインレジデンスというサンフランシスコでやってるものを日本に持ってきたと。

・日本で今年から始めてるのは、スタートアップエグザクトという名前で総務省から5と1を足しましたけれども、各自治体の行政課題をポンとホームページで全部足してしまうと。今、いろんな自治体が総務省のサイトのほうであがってますけれども、そこで「行政これで困ってるんです」、ということも行政の解決してもらいたい一種というのをあげてるんですね。

・これを目掛けてスタートアップが提案しに行くと。RFPがフル公開出てるわけです。そこに対して、将来的にはこの後継衝突ラインにのればいいんですね。これは自治体として、今、スタートアップを支援するとかスタートアップの環境を整えるという議論になってますけれども、自治体は都市経営やってるわけですね。行政で業としてエリアを運営していると。

・そういう意味でも自治体としてもコストを使いながら事業をやってるわけですよ。その事業のところで、本当のスタートアップのサービスとかアプリケーションとかを取り入れれば、その行政コストがもっと効率的に利益率が上がるって発想ですね。例えば、住民からの税込含めて、どう利益率を上げるのかという思想って結構公共経営には欠けていたという。やっぱりそういうところをどんどんスタートアップの知恵とか、サービスとかを使いながら、どうやって筋肉質にしていけるかという、その視点が結構重要で、やはりそこって毎回毎回

税収を含めて歳入、歳出の中で予算を組んで一定程度ファンディングしてるわけですから。

・結構恐ろしいお金ですね。そこに行政サービスの提供されるマーケットに対して提供されるお金は、それが毎回大企業ばかりが受託して、という。この体制をどう変えるかというのは、一つ行政の統治機構のあり方をそもそも見方を変えていくという。そこは自治体でもできるだろうというのが1つであるかと。

(正城委員長)

・国関係は、どうしても研究開発の予算は出たり、体制づくりの予算は出たりするけども、事業そのものの予算が出てくるわけじゃなくて、今おっしゃったように実際国が最終的に発注します、ということになれば、ベンチャーのビジネスそのものになるし、かつ実際としての課題解決にもつながるといふ非常に面白い視点だなというふうに思います。

(東委員)

・歴史的に見たら結構シンプルでして、昔100年前とか日本ではABCとか東芝とか日立が創業されてますけれども、こうやって高度経済成長したときに、やっぱり国のセキュリティはうちらが守りますとかいって、国の成長とともに今でいわれる大企業が育ってきてますから、彼らも一定程度公共調達ででかくなってきてるわけですね。

・これが固定化してしまってるのが今問題であって。だから、シリコンバレーも、国防総省がいつかしまえばデュアルユースを含めてスタートアップにどんどん金流してるとか。国のグラントとか自治体のグラントという役割ってすごい大きいはずなので。

(正城委員長)

・自治体ならではのところですね。

(竹村委員)

・シンガポールとかもその辺すごい上手にやっているかなと思いますね。非常に会社経営的に政府を運営してる場所もあったり、結構スタートアップでも外資でも、いいものであれば取り入れるという。

(東委員)

- ・ある意味政府が経営者みたいな。

(竹村委員)

- ・そういう感じで、我々みたいな外資でも使っていただいたりとか、文化庁に使っていただいたりとかいうことにつながって。

(正城委員長)

- ・そういった活動を通じてベンチャーも育つんだけど、大阪市民にもメリットがあるというようなことで、まさに大阪資産が大阪でやる意味というのが絶対そこはぶれないですね、そういう回転だと。

(田中委員)

- ・ふと思ったんですけど、スタートアップの資金調達ってよく借入れか増資かってありますけども、一番重要な資金調達方法って売り上げですよ。取り引きをつくってやるっていうのが最も大事で、大阪市さんがユーザーになってくれれば。

(東委員)

- ・例えば、すごいわかりやすい例でいうと、北海道の札幌市とかかわってたんですけど、除雪費用で1日1億かかっているというわけですよ。1年間に230億ぐらい使っていると。これ10年間で2,300億使っていると、住民困るからといって当たり前前の雪かきしとるわけですね。ずっとかかるコストだと考えてしまっているの、これを下げれる知恵というところを考えてないわけですよ。結構膨大ですね。

- ・日本考えたら除雪地域って山ほどありますから、それだけでマーケット何千億とあるわけですよ。これが血税なわけですね。市民の住みやすい環境の維持のためにみたいな文脈で。ここいろいろグラントとしてはすまじいグラントという風に考えると、改めて大阪市の財政見たときに、今まで諦めて当たり前なのにふえていくと思ってた社会保障費とか、実はいろんなアイデアで下げられるんじゃないか。

- ・こうなってくると、ある種自治体がユーザー、クライアントになりますし、逆にそこがある意味金融スキームも使えばソーシャルインパクトボンドの総帥になってくると。そういう考え方がやっぱりリスクマネーの供給先として、もう1つ大きなパブリックな税制というの

があるかなど。

(田中委員)

・大阪っていろいろ解決しないといけないことも多くて、生活保護費が2割になったんでしたっけ。非常に苦勞している自治体でもありますし。慎重にやらないといけないことは多いとはいえ、結局市民の方々も大阪市の経営もスタートアップも3つとも得する方法って多分最適化の中で生まれてくるのかなという気はいたします。それとイノベーションですよ、よく考えたら。大阪をイノベーションすればいいんですよ。

(東委員)

・都市経営自体丸ごとイノベーションしていただいて、やり方全て変えるぞと、人・物・金・流れ・情報変えますみたいな、流れ方を変えるというのは。

(竹村委員)

・そういった中で、若い子たち、本当に中学生とか高校でも今実際に起業できる時代ですから、やっぱり当事者でこの社会を背負っていく子たちの、どうやって当事者として巻き込んでいってイノベーターに参画してもらってというのはすごく大事だと思うんですよ。

・ちょっとげたを履かせたとしても、彼らに自分たちで何かをやってるという意識をもって、大人がその実現を精いっぱいサポートするみたいなそういう構図はすごく新しいですし、社会経験を積んで30歳ぐらいにならないと起業できないとかっていうのはもうナンセンスだと思うんですよ。

・実際、エストニアとかだと小学校からブロックチェーンを教えているような状況なので、そういう意味では、ある程度リープフロッグしたことをやらないと、新しさが無いというのは言い方悪いんですけども、イノベーションの流れる的にはキャッチアップゲームになっちゃうんで、それだったら逆に先ほどおっしゃられたような都市デザインを子供も含めてやっちゃうとか、それぐらい大胆な案が出てくると物すごく画期的だと思いますし、逆にわくわくするので、どんどん大阪の外からも一緒にやらせてくれっていう人たちが集まると思いますね。

(東委員)

・私、高校生のピッチコンテストとかを審査員でやってるんですよ。結構すごいなと思ったのが、グローバルでDDCAというプログラムがありまして、高校生を集めて起業家トレーニングをひたすらバリバリやってるんですね。ある種イメージ的には高校生にMBAを教えるようなもんですわ。ファイナンスとかマーケティングとかビジネススキルをきわめるといふ。

・こういうプログラムを大体今見たら3,500くらいのハイスクールチャプターズと書いてますから、3,500校の高校生が集まって、すごいメンバーが今21万5,000人って言われている。こういうプログラムがちょうど和歌山でもちょこっとちっちゃく試して、私もそこでアドバイスしました、っつもう始まってんですよ。

・やっぱりどんどんどんどん低年化して行って、高校生ぐらいからそういうスキルを学ぼうと、目的意識をもって大学に進学したときに、俺はこれをやるために学ぶんだ、という形で、そこへどんどん人生設計が明確化されてくるという。やっぱりどんどんどんどん幼いころからやってしまうという。ちょうど高校生ぐらいになってくるとイメージしやすいというか、次専門機関に出ていくというときに、何のために学ぶのかという。

・よくあるドイツでのギルド制度みたいなものですよ。職人教育を、もう中学校ぐらいで進路決めてしまうと。ギルドに入るかって形で、どのギルドに入るかって決めて行って職人が育つという。それをもうちょっとビジネススキルつけてあげて、次だんだんと言うと、文理融合みたいな話が高校生やるぐらいからできるわけですね。今、大学での文理融合って、なかなか昔もずっと言いつつも流れないというのが、そのもうちょっと前段階の教育のところが弱いかなと。

(竹村委員)

・今、結構高専が熱いじゃないですか。なので、高専でなかなかそれだといきなり東大とか行けないんで、スタートアップでもお金がつきにくいとかということではなくて、そこからいきなり起業を伸ばすというのは全然つくれる時代になってきていると思うので。

(正城委員長)

・初等、中等で、大阪市さんは市立中学、小学校とかね、またちょっと検討いただきたいと思うんですが、ちょっと時間の関係であと数分になりましたけども、今後の方向性で今議論いただいている点以外に、資料7で何か漏れてるところというか、これだけは説明いただかな

いとというところがあれば3分ぐらいでお願いしたいと思います。

(事務局)

・今後の方向性というところで、これまでの課題等で整理をした資料なんですけども、一番左端に掲げてるのが、今回いろいろと課題として挙げられてた項目なんです。オープンイノベーション推進であるとか、アクセラレーション機能の充実、グローバル展開、情報発信の強化等々ですね。

・今日は、起業家人材をふやすというところで特に参考にさせていただけるような御発言いただけたかと思うんですけども、こういったような内容について、それぞれ方向性というのは右のほうに書いてございます。特に、我々としても重要と考えてますのは、起業家人材の取り込み、集まる場にしていくということも大切な視点かと思っておりますので、そういうところについても検討をさせていただきたいと思っております。

・あと情報発信については、福岡の話もございましたけれども、やはりいろんな事業を大阪でもやっております。ただ全体像が見えてない、パーツはやってるんですけども、全体像は見えてないというようなことも現状としてはございますので、その辺を見えるような形でどうしていくのかというところをまた課題として考えておりますので、このあたりについてもまた次回以降御意見を頂戴できればと思っております。

・主なところではそんなところで、あとは、大学との連携というところで、そういうところも強化とかいうところも区別して考えております。きょうは何かを決議するというようなことがございませんでしたので、引き続き次回以降またこういったテーマでお話を覚えていただければと思っております。

・情報発信の強化については、やっぱりわくわく感というかブランド感というか空気感、これを発信できないと人は集まって来ないというのが一番大きなポイントやと思うんで。

(東委員)

・うまくやってる自治体は社長がすごいですよ、市長。

(事務局)

・それはそうなんですけど、そうなんです。よって、我々は、組織で何とかちょっとでもカバーしようかなと思っておりますので、皆さんもぜひよろしく願いいたします。評価す

るだけではなくて、御支援のほどよろしく願いいたします。

(田中委員)

- ・市長みずからが行動されることによる効果は普通の人100人1,000人も勝る。

(東委員)

- ・エリアでは、これから本当にすごいのは、浜松市とかやと思いますよ。浜松市長とか広島県知事、強力なプロモーションかけてきてますからね。

(正城委員長)

- ・是非今までのアドバンテージを無駄にしないように、下期に向けても邁進していただきたいと思います。下期はまたきょうの意見を反映された部分だったりとか、これまでの延長としてしっかりやっていただく分とかの評価をしていただく会議だろうというふうに伺ってますので、よろしく願いします。

- ・今日は委員の方々、非常の多岐にわたる御意見ありがとうございました。それでは、本日の評議会は以上ですけど、何か連絡事項があれば事務局からお願いいたします。

(事務局)

- ・皆様、どうもありがとうございました。本日いただきました御意見踏まえて、今後取り組み進めていきたいと思っております。

- ・下半期には大きな取り組みとして、例年やっております国際イノベーション会議H a c k O s a k a ございます。今年度のH a c k O s a k a 2 0 1 8 は、2月27日を予定しております。ここグランフロント大阪の地下2階コンベンションセンターで開催いたします。委員の皆様にも御案内差し上げますので、御都合つきましたらぜひ御参加いただきたいと思っております。当日Y o u t u b e での配信もございますので、そちらで御視聴いただくことも可能になっております。

- ・最後になりましたが、次回の評議会、来年3月を予定しております。事務局からまた日程の調整をさせていただきますので、次回もどうぞよろしく願いいたします。

本日は以上でございます。どうもありがとうございました。